

熊本矯正歯科研究会

NEWS LETTER

2014年 第2号(秋季)

事務局:おにき矯正歯科クリニック内
〒861-4172 熊本市御幸笹田 1-9-38
TEL 096-334-8211 FAX 096-334-8210
E-Mail yasu1015@hyper.ocn.ne.jp



熊本矯正歯科研究会講演会 (H26. 5. 17 アークホテル熊本)

ご挨拶

熊本矯正歯科研究会 会長 伊東隆三



平成 26 年度、秋季第 2 号（通巻 8 号）の NEWS LETTER を会員の皆様にお届けできますことは、河野賢二 広報担当常任理事はじめ副会長、常任役員のご尽力によるものと感謝申し上げます。

熊本矯正歯科研究会会長に就任し 5 年目を迎えます。本来であれば 2 期 4 年の任期ですが、立候補者がいなく 4 月から 3 期目の会長を務めております。役員、会員の先生方のこれまで以上の御協力をお願いする次第です。

これまでの熊本矯正歯科研究会の活動状況につきましては、NEWS LETTER やホームページをご覧くださいませとおわかりいただけると思います。

さて、平成 28 年度には第 12 回九州矯正歯科学会学術大会が開催されることになっております。これまでの開催日程からしますと平成 29 年 2 月初旬の開催ということになります。そこで、今年度中に実行委員会を立ち上げる必要があります。本執行部は平成 27 年度すなわち平成 28 年 3 月までですので熊本大会は次期執行部が開催することになります。そこで大会実行準備委員長は次期会長が務めることが妥当ではないかと考えております。何とか次期会長、次期執行部が決まってくればと念じております。九州矯正歯科学会熊本支部会員と熊本矯正歯科研究会会員が協力し合って、また先生方の絶大なるご支援いただきながら熊本大会を成功させねばなりません。

さて、3 月に次期（平成 26, 27 年度）日本矯正歯科学会評議員の選挙が行われました。これまでは私が評議員をしておりましたが、若返りを図ることから鬼木泰久常任理事を立て選挙に臨み、みごと評議員に当選されました。今後は熊本矯正歯科研究会の代表として、日本矯正歯科学会の中で頑張ってくださいよう期待しております。

熊本矯正歯科研究会秋季講演会は10月25日（土）に開催されますが、今回は医療法人伊東会、理事長伊東隆利先生に特別講演をお願いしております。先生方からご紹介いただいた顎変形症の治療例について詳述していただき、今後の顎変形症治療の参考となるようにと期待しております。

熊本矯正歯科研究会では、以前にも述べましたように行政や市民に対して、噛むことの重要性や現代病であるディスクレパンシーの予防のためにはもっと噛むことが必要であり、また食習慣の改善が重要であること等について啓発していくことが重要な課題であると考えております。矯正専門医が一般歯科医と協力して不正咬合の予防や矯正治療の必要性について保護者の方々に説明・理解をうることが将来の歯科医療への貢献につながるものと考えております。

これからも熊本矯正歯科研究会の発展に皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

今年度前期の主な活動

○ 平成26年度前期 常任役員会・理事会から

今年度より伊東隆三先生の3期目が始まり、常任理事による役員会を3ヶ月ごとに行なっています。常任役員会では、熊本矯正研究会主催の行事（講演会）や歯の祭典などイベントへの出務、会計状況等を検討しています。研究会がより発展し、会員の先生方に役立つようにこれまでの議題を中心に協議しています。

現在、矯正歯科的学校歯科検診の導入や本会が主催することとなる平成28年度九州矯正歯科学会熊本大会（2017年2月予定）の準備などを主な議題として話し合っています。特に、九州矯正歯科学会熊本大会については300人近くの参加が見込まれるため、今年中には準備委員会を立ち上げるべく検討しております。

一方これまで、年二回の講演会の前に矯正症例相談会を実施しておりましたが、希望者が少なく開催できない状態になっておりました。そこで、以前行っていた会員発表を再開し、講演会を外部講師による講演と会員発表の2講演にしていこうこととなりました。

理事会は今年度3回開催を予定しています。前期では平成26年5月17日にアークホテル熊本で平成26年度第一回理事会（・評議員会）を実施いたしました。

研究会がより充実・発展するためにも、更なる会員の勧誘が必要と考えられますので、皆様のご協力をお願いいたします。

○ 平成26年度 第一回総会

平成26年5月17日、アークホテル熊本にて平成26年度第一回総会を開催しました。議長（若江秀敏先生）、議事録署名人（分山英次先生、井原功一郎先生）、8名の理事（委任状7名）にご参加いただきました。

1) 報告事項

- ・ 現在の会員数は89名です。
- ・ 平成26年度秋の講演会は、伊東隆利先生（伊東歯科口腔病院）による外科矯正手術に関する特別講演と上村裕希先生（熊本駅前矯正歯科）による会員発表を予定しています。講演会のあとに忘年会も予定しております。
- ・ 今年も熊本市歯科医師会主催の「2014 歯の祭典」（6月8日 ウェルパルクまもと）に、本会より11名の先生方に出務していただいて矯正相談コーナーを担当しました。今年の矯正相談者数は68名で、昨年より30名ほど減少しましたが、「小児歯科」をテーマにした歯の祭典の全体では来場者数が1000人を超えたのでことで、盛況だったようです。



総会



歯の祭典（2013年から）

2) 審議事項

平成 25 年度決算報告は徳永監事と澤木監事より 3 月 31 日に監査を受け、承認されている。平成 26 年度予算案についても賛成多数で承認されました。

平成25年度熊本矯正歯科研究会決算報告

収入の部		支出の部	
H25年度年会費(6,000×79名)	474,000	通信費	32,150
入会金(4,000×1名)	4,000	事務局経費(印刷代等)	72,497
H24年度未納分(6,000×16名)	96,000	会議経費	17,874
5月総会懇親会費(会員)(7,000×35名)	245,000	ホームページ維持管理費(年間管理費)	10,815
5月総会懇親会費(スタッフ)(3,000×13名)	39,000	5月総会 室料・宴会費・その他(アークホテル)	234,425
11月臨時総会懇親会費(会員)(7,000×29名)	203,000	講演会講師謝礼	100,000
11月臨時総会懇親会費(スタッフ)(3,000×14名)	42,000	感謝状	2,940
御柳(5. 11月:10,000×5件)	50,000	受付スタッフ日当(5,000×3名)	15,000
利息	321	11月臨時総会 室料・宴会費・その他(アークホテル)	275,475
H24年度繰越金	1,800,100	講演会講師謝礼・宿泊費・交通費	153,480
小計	2,953,421	感謝状	2,380
		受付スタッフ日当(5,000×3名)	15,000
H25年度繰越金	2,021,385	小計	932,036

(単位:円)

平成26年 月 日、通帳、領収書など関係書類を確認した結果、適正に処理されていましたのでここに監査の結果、相違ないものと認めます。

監事 徳永 俊英 印
監事 澤木 春明 印

平成26年度熊本矯正歯科研究会予算案

収入の部		支出の部	
H26年度年会費(6,000×88名)	528,000	通信費	50,000
H24、25年度年会費(未納分)(6,000×15名)	90,000	事務局経費(印刷代等)	100,000
5月総会懇親会費(会員:7,000×35名、スタッフ:3,000×15名)	290,000	会議経費	20,000
11月例会懇親会費(会員:7,000×35名、スタッフ:3,000×15名)	290,000	ホームページ維持管理費	45,000
新入会の年会費(6,000×3名)	18,000	5月総会 室料・宴会費・その他	280,000
入会金(4,000×3名)	12,000	講演会講師謝礼・宿泊費・交通費	130,000
H25年度繰越金	2,021,385	11月例会 室料・宴会費・その他	280,000
小計	3,249,385	講演会講師謝礼・宿泊費・交通費	170,000
		感謝状(5. 11月:3,000×2名)	6,000
		受付スタッフ日当(5. 11月:5,000×6名)	30,000
		日本矯正歯科学会代議員会および九州矯正歯科学会総会出向交通費	100,000
		予備費	2,038,385
		小計	3,249,385

(単位:円)

○ 平成 26 年度 春の講演会・懇親会

総会に引き続き、講演会と懇親会が行われました。講演会は成長期の矯正治療について福岡大学教授の篠原正徳先生に講演していただきました。懇親会は会員の先生のみでなく、熊本県歯科医師会や熊本市歯科医師会からの来賓の先生、歯科関連業者の方、スタッフの皆様方など多くの方にご参加いただきとても盛り上がりました。ありがとうございました。

特別講演 成長期の矯正治療の意義を再考する

福岡歯科大学成長発達歯学講座矯正歯科学分野 石川博之教授



(抄録) 成長発育期の不正咬合に対する矯正治療の有効性や具体的な治療の進め方については、古くから多くの議論がなされてきました。成長発育期の治療だけで機能的かつ審美的な永久歯列と咬合を獲得することは困難な場合も多いため、現在では 1 期治療および 2 期治療といった 2 相性の治療の考え方が主流となっています。それゆえ、2 期治療を効率良く行うための前段階治療として 1 期治療をとらえる考え方は広く普及しています。しかし、最近、欧米ではこのような 2 相性の治療に否定的な見解を示す報告もなされるようになってきました。そこで、日本矯正歯科学会学術委員会では、第 70 回から 72 回までの大会において、「1 期治療の意義を再考する」、「1 期治療の意義を再考する Part2」、「機能的矯正装置の効果を再考する」と題したサテライトセミナーを開催しました。このセミナーでは、9 名の先生方にご講演をいただきましたが、その中で永久歯列の安定した機能的咬合を確立する上での 1 期治療の役割、そして成長期の治療の生理学的および社会心理学的意義とその可能性等が述べられ、また今後の課題として、治療効果の評価ということを再考する必要があることが示唆されたように思います。

今回の講演では、成長期の上顎前突の治療に焦点をあて、2 期治療をふまえた 1 期治療の意義、また治療効果の個体差について、当教室での研究結果を示しながら考えていきたいと思っております。さらに、治療効果の評価方法に関連して、エンドポイントと QOL 評価のお話をさせていただきたいと思っております。

石川教授にはお忙しいところ快く講演を引き受けていただきました。前回は「早期治療の意義を再考する」の議題で小野先生(東京医科歯科大学教授)に講演していただきました。いずれの講演でも、経験的には治療効果があることに対する実証することの難しさなどを痛感いたしました。貴重な講演をありがとうございました。

懇親会スナップ



今後の予定とお知らせ

- 平成 26 年 10 月 25 日（土）にアークホテル熊本で平成 26 年度熊本矯正研究会秋の講演会と忘年会を行います。
秋の特別講演会：伊東隆利先生（伊東歯科口腔病院）、会員発表：上村裕希先生（熊本駅前矯正歯科）
- 熊本矯正歯科研究会のホームページは <http://kumakyouseiken.com/> です。ぜひご覧下さい。

（編集；広報担当常任理事 河野賢二）